

天然アカマツ林の再生をめざして



貴重なアカマツ林のある公園

静岡県立森林公園は、アカマツの純林がまとまって残されている県内でも貴重な場所です。アカマツは、尾根沿いなど、日当たりの良い、乾燥したやせ地によく見られる樹木です。公園でも丘陵エリアに多く残されています。

マツ枯れなどによる純林の減少

ガスや電気が普及する以前、地域の人々は、「ごかき」と呼ばれるマツの落ち葉かきをし、薪を燃料に、またマツタケを採取するなど、アカマツ林とともに生活してきました。そのため林床は常に明るく、アカマツ林が保たれる環境が整っていました。しかし、森の利用がなくなるにつれ、森は草や木が育つ「遷移」が進み始めました。また、マツノザイセンチュウによるマツ枯れが追い討ちをかけ、県内の天然のアカマツ林は減少の一途をたどっています。園内においても現在のアカマツ林は、10年前の約半分となっています。

静岡県では、「県立森林公園再整備計画（H28年1月度策定）」を上位計画として公園内のアカマツ林の保全・再生に関する方針を定めています。それに基づき、当公園では「アカマツ林再生プロジェクト」を立ち上げ、一般からサポーターを募り、活動しています。

静岡県立森林公園 ってどんなところ？

天然アカマツ林や湧水湿地のある遠州地域ならではの自然に恵まれた森です。1000種以上の植物や80種におよぶ野鳥、さまざまな昆虫類など、豊かな自然に恵まれています。森の散策はもちろん、大人から子どもまで楽しめる、自然やクラフトに関するプログラムも盛りだくさん。デイキャンプ設備もあります。

ビジターセンター バードピア 浜北

展示、自然情報の発信、自然体験型プログラムの提供などを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料 無料
- 開館時間 9:00～16:30
- 休館日 毎週水曜（祝日の場合は翌日）
12/29～1/3
- 問合せ ☎053-583-0443

アカマツの天然更新を促す活動

プロジェクトでは、残存するアカマツから自然に地面に落ちたタネの発芽による、アカマツ林の再生を目指しています。

アカマツが高木となっているところでは、シダ類や雑草かん木が林床を覆っていたり、落ち葉が積もって厚くなっていたりします。すると、アカマツの発芽や、稚樹の定着がしづらくなります。そこでプロジェクトでは、シダ類やかん木の伐採・除去、また落ち葉掻きなどを行い、アカマツが天然更新できる環境づくりをしています。

一方、大量に実生が発生しているエリアについては、抜き取りや周りのかん木の伐採を行い、光環境を改善し、生長を促します。

この取り組みにより、アカマツの森を元気にし、地域の特徴ともいえる環境を再生していく考えです。皆さんとともに、育てていきましょう。



プロジェクトに参加のサポーター。
平成30年11月までにアカマツ林再生活動を6回実施しています。

木工体験館

気軽に木工作業を楽しむことができます。キット作品でも、オリジナル作品でも。工具はそろっているので、手ぶらでどうぞ！

- 開館日
＜行事開催日＞ 月・木・土
＜一般開放日＞ 金・土・日
- 開館時間：9:00～16:30
初めて利用になる方は「初心者利用講習」受講が必要です。
- 問合せ ☎053-583-1559



Shizuoka Pre.Forest Park 静岡県立森林公園季刊誌 11号 2018-19・冬



冬のスポーツ広場に行ってみると…
イノシシ除けの柵のなかに、
小さな土の山がたくさんあります。

モグラ

森林公園にすむモグラ

本州から九州の平地にすむモグラで代表的なものは、コウベモグラとアズマモグラです。コウベモグラは全長20センチほど、アズマモグラは全長17センチほどです。共存するのは難しいようで、ひとまわり大きなコウベモグラが、小さなアズマモグラをどんどん北東に追いやっていると言われています。

分布の境目は、富士山から石川県金沢市を結ぶ線で、その線より西側にはコウベモグラ、東側にはアズマモグラが主にすんでいると言われています。

そのため、森林公園にはコウベモグラが生息していると考えられます。

では、どうして冬になると、こんな小山ができるのか…

ひみつは、次のページで

この小山はなに？

実は…

これはモグラが作った小山なんです！

モグラ塚と呼ばれます。

え！



こうやってつなげてみると…

モグラのトンネルが小山の下にあるのでは？と予想できます。

なんと！



とろて モグラって どんな生き物？

モグラとは、トガリネズミ形目 モグラ科の仲間の生き物の総称。
トガリネズミ形目は、別名 食虫目。つまり、虫を食べる生き物。
ミミズを中心に、土の中にすむ幼虫など、動物質のものを食べます。

だから、土の中にトンネルを掘るんですね！

トンネルを歩き回りながら、トンネルの中に落ちている生き物、
トンネルの壁付近にいる生き物を食べているそうです。
1匹で30メートルぐらいのトンネルを利用しているようです。



耳 耳たぶのようなものはない。穴が開いているだけ。音は聞こえている。

毛 体に対して垂直に生えている。そのため、トンネルの中を前後に移動しやすい。

目 皮膚におおわれふさがっている※

鼻先 アイマー器官という感覚器が多数ある。0.5ミリほどの小さな器官で、微弱な振動を感知する。

手 スコップのような役割。手の平が広く、外向きになっているので、トンネルの横壁を掘りながら進める。

尾 ネズミに比べて短い。毛がまばらに生えていて、感覚毛と考えられている。

※ 外国のモグラには目が開いているものも…でも、視力はほとんどないそうです。

どうして 冬になると モグラ塚が みられるの？

暖かい時期は、地下10センチほどのトンネルと地表付近のトンネルを使っています。

冬になると、地下20～30センチほどの場所へ移動し、トンネルの掘り直しをします。(ミミズなどが温度の安定している地下深くへ移動するためだと言われています)。トンネルの掘り直しする過程で、じゃまな土がたまってくると、モグラは斜め上に分かれ道を作り、地上に土を捨てます。この時にできる小山がモグラ塚です。

トンネルの掘り直しをするので、モグラ塚ができるんですね！

春には、浅い場所へ戻ってくるため、また土が捨てられ、モグラ塚が多くなります。

モグラの役割

モグラは地中の虫を食べ、ガやコガネムシの幼虫など害虫と呼ばれる虫も食べてくれます。自然界に目を向けると、虫を食べることでより虫の増えすぎを抑制し、生態系のバランスをコントロールする役割を持っていると考えられます。

また、モグラ塚をすることにより、畑の土を耕すように、土壌の栄養分などを循環させているとも考えられます。

モグラのトンネルやモグラ塚がじゃまになっても、大目に見てくださいね！

よろしくです



これもモグラのしわざ？！

冬のスポーツ広場ではモグラ塚とは違った掘り跡を見つけることがあります。一面に土を掘り返した跡です。

この掘り跡は…

モグラではなく、イノシシの掘り跡です。夜の間にイノシシがやってきて、鼻で地面を掘りミミズなどを食べた跡です。昼間は藪のなかで休んでいます。



イノシシ

冬の静岡県立森林公園 で見られる動植物

西ノ谷奥池にはマガモやコガモなど、散策道を歩けばジョウビタキやシロハラなどの冬の渡り鳥の姿が見られます。1月～2月中旬頃には、うぐいす谷親水広場の水辺などで、ニホンアカガエルの卵塊も見られます。ヒサカキなどが小さな花をつけ始めます。



ヒサカキ



スズカカンアオイ



サルトリイバラ



アカネ



コウヤボウキ



ノコンギク



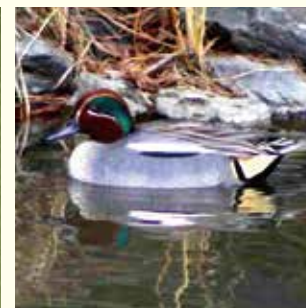
ニホンアカガエル



ニホンアカガエル (卵塊)



マガモ



コガモ



オオバン



ヨシガモ



ルリビタキ



シロハラ



ビンズイ



ジョウビタキ